

海外医療研修コース実習・演習

International Student Exchange Course

薬：L1-13503MY

コース科目 5年／前・後期 12単位 選択必修科目

科目責任者 赤沢 学(公衆衛生・疫学研究室)

■教育目的

海外(アメリカ、カナダ、英国、タイなど)の医療に関わる薬剤師の業務と責任を理解し、国際化した社会状況に対応できる薬剤師になるため、国内での実習では得ることが出来ない知識、技能、態度を、海外での課題解決型の学習と就業体験を通して習得する。【卒業認定・学位授与：YD-⑤、YD-⑥】

■学習到達目標

1. 日本の医療制度、薬剤師教育、薬剤師の役割を英語で説明できる(知識、技能)。
2. 海外の医療制度並びに薬剤師教育を理解する(知識)。
3. 海外の地域薬局並びに病院薬剤師の業務と責任を理解する(知識)。
4. 海外の薬学生と交流することで、医療人としての共通意識を深める(態度)。
5. 英語によるコミュニケーション力を高める(技能)。

■準備学習(予習・復習)

予習：日本の医療制度・薬剤師の役割を英語で説明出来るよう準備しておく(10時間以上)。

復習：海外研修の内容をプレゼンテーションできるよう、研修期間中に記録しておく(GoProの貸し出しを行う)。帰国後、英語検定を(TOEIC等)受ける。

■授業形態

課題解決型学習(外部機関との連携あり)、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1～2	事前学習・演習	日本と海外の医療制度、薬剤師教育、薬剤師役割に関する事前学習、英語プレゼンテーション講習、英語並びに現地語でのコミュニケーション練習	A(5)-①-1～5
3～14	実 習	受入大学(アメリカ・イリノイ大学シカゴ校薬学部、カナダ・アルバータ大学薬学部、イギリス・ハートフォードシャー大学薬学部、タイ・チュラロンコーン大学薬学部、タイ・マヒドン大学薬学部)によるオリエンテーションを受けた後に、学内講義やワークショップに参加、地域薬局、病院薬剤師の見学や実務体験、コースワークのプレゼンテーションなどを行う。	A(5)-①-1～5 A(5)-②-1～2
15	事後学習	帰国後の研修報告会にて研修内容を英語でプレゼンテーションする。また、その内容を報告書にまとめて提出する。 帰国後に英語検定(TOEIC等)を受験する。	A(5)-③-1～2 A(5)-④-1～2

■授業分担者

赤沢 学(責任者)、樋口 和宏、酒井 良子、廣田 慶司、櫛山 暁史、前田 英紀、三山 美緒子(事前学習担当)、学外講師(必要に応じて)

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

事前学習・演習の発表内容(30%)、海外研修報告会並びに報告書の内容(40%)、英語検定の成績(30%)で総合評価を行う。なお、外国人留学生在日本国内で行う医療研修に参加して日本の医療を説明する活動(ボランティア等)に従事した学生に関しては、それを通じて得られた学びを、省察(レフレクション)レポートとしてまとめて提出した場合は、成績評価に加味する。

■教科書

特に指定なし。

■参考書

英語プレゼンテーションやレポートの書き方に関する参考書は実務実習支援課にて貸し出し可能

■その他

コースを履修するために必要とされる最低限の語学(英語)能力は、事前に各自が TOEIC 等(英検、TOEFL、IELTS でも可)を受験し、基準点(毎年公示)に達していることが望ましい。